

図書館だより

90



多文化サービスとは

○多くの人に図書館をご利用いただくために

英語・中国語・韓国語・やさしい日本語での図書館の利用案内の配布や、外国語の本を収集しています。

○多様な文化を知ってもらうために

多言語でのおはなし会を実施したり、多様な文化を知るきっかけとなる本の展示を企画したりしています。

○日本語を学習している人のために

中央図書館・保谷駅前図書館・ひばりが丘図書館では日本語を学習するための本を集めたコーナーを設置し、関連の講座を企画しています。

中央図書館の案内動画をつくりました！



日本語を母語としない人に向けて、中央図書館はどんな場所で、何ができるかなどを案内した動画をつくりました。図書館のホームページで公開していますので、ご覧ください。



にほんご多読コーナーをつくりました！

図書館には、日本語を学習している人が、楽しく読書ができるように工夫された本「日本語多読の読み物」があります。

中央図書館ではこれらの読み物と、日本語のレベルに応じた絵本等を一緒に展示した「にほんご多読コーナー」も開設しました。



にほんご多読ワークショップを実施しました！



令和5年3月に「にほんご多読ワークショップ」を田無公民館で実施しました。今回は主に日本語学習者の支援をされている方に多くご参加いただきました。参加された方からは「これまでの『多読』に対する考えが変わりました」や「今後の授業で取り入れてみたい」といった声をいただきました。

★声の広報をお届けしています。

お問い合わせの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

「いろいろなことばでたのしむおはなし会」ぜひ遊びに来てください!



英語



フランス語



中国語



ウクライナ語



韓国語



オランダ語



スペシャル

親子で参加できる多言語のおはなし会を随時実施しています。多言語の絵本や遊びの紹介をしています。興味のある方はご参加ください。



(※スペシャルおはなし会では、季節にあわせた絵本を多言語で紹介しました)

多文化・多言語に関する図書の展示を実施しました!



世界の年末年始
(中央図書館)



絵本で世界を旅しよう
(ひばりが丘図書館)



おなじ絵本 de よみくらべ
(中央図書館)

団体貸出を行っています！

西東京市図書館では、主体的に読書・文化活動等を行っている団体を支援する目的で、資料の団体貸出を行っています。貸出冊数は200冊、貸出期間は3ヶ月です。市内で活動している施設や市民グループ、学校や児童館などが対象となります。

いいね！西東京市おすすめセレクト本

小・中学生を対象に、グレード・ジャンル等に配慮し、選書した30冊を1セットにした「いいね！西東京市おすすめセレクト本」を用意しています。学校や児童館へ貸出していますので、学級文庫などにぜひお役立てください。

ハンディキャップサービス

市内の福祉関係施設（老人ホーム等）や病院などに向けて、まとめて資料を貸出しています。施設内での個人の読書や読み聞かせ等にぜひお役立てください！

ご希望にあわせて、2～3ヶ月ごとに資料の入れ替えもできます。



ご利用には登録が必要です。詳しくは図書館へお問い合わせください。



読みたい本、見つからなくてもあきらめないで！ ～リクエストサービスのご紹介～



図書館ホームページや館内の検索機で調べても、読みたい本が出てこない…そんなときは「リクエストサービス」をお使いください！

西東京市にお住まいの方であれば、西東京市図書館で所蔵していない資料をリクエストすることができます。カウンター、電話、図書館ホームページにて受付していますので、お気軽にご利用ください。

いただいたリクエストは、所蔵している都内公共図書館からの取り寄せ等によりご提供します。



リクエストの受付に関する詳細や、図書館ホームページでのリクエスト方法はこちらからご確認ください。



にんにん西東京

第36回 「田無・保谷の都営住宅」

戦後の住宅難と都営住宅の設立

戦災による住宅難の中、都は「東京都営住宅使用条例」（昭和21年2月）を公布し、応急簡易住宅の建設や既存建物の転用等により、区部を中心に都営住宅政策を開始します。田無町・保谷町ではじめて建設された都営住宅は、それぞれ昭和26年の田無第4住宅、現在の田無谷戸二丁目アパート、昭和23年の保谷住宅、現在の柳沢二丁目アパートです。

目下の住宅不足解消のため、当初の条文に入居の資格要件（収入基準等）は明記されていません。現在のような「公営住宅」としての役割がはつきりするのには「公営住宅法」（昭和26年6月）が公布され、都の条例が全文改正（同年9月）されてからです。

高度経済成長期に入り、田無・保谷の人口は急増します。この時期に都営住宅の建設はピークを迎え、昭和45年までに田無市で26か所（1806戸）、保谷市で41か所（1589戸）建設されました。

都営住宅での暮らし

建設された住宅は、一部の簡易耐火構造を



▲ 都営田無第9住宅
（現・西原町一丁目アパート、昭和35年）

← 建替前後の都営住宅一覧や
参考資料の一覧はこちら



除き、ほとんどが木造の平屋でした。一戸建てで建坪は10坪程度、主流は2Kで浴室はついていません。都営住宅に浴室が設置されるようになるのは昭和36年以降であり、住人は近くの銭湯に通いました。

居住者を悩ませたのが水問題です。田無町、保谷町とも町営水道が引かれたのは昭和38年で、少なくともそれまでの間は住宅ごとに水を^{まかな}賄う必要がありました。地下水を給水塔に



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

汲み上げ各家庭に配水し、不足分は井戸で補うところもありましたが、停電による断水、^{かまひ}湧水、井戸水の衛生面での問題等、今のよう^にに手軽にきれいな水を得ることは困難でした。住宅難や人口増加を背景に都営住宅への応募が殺到しましたが、入居できたとしても居住に不満がなかったわけではありません。住宅の狭さ、日照や通風等衛生上の不便、家賃の高さや建物の老朽化に対し対策を求める声は多くありました。

都営住宅の建替事業

都市の不燃化、土地の有効利用、居住者の暮らしの質向上のため、都は木造平屋を中心とした住宅の建替えを開始します。田無市では昭和45年（田無芝久保一丁目アパート）、保谷市では昭和55年（柳沢二丁目アパート）以降、平成の初めごろまで続きました。

建替え後は中層化し、耐震構造の鉄筋コンクリートで、建坪は20〜23坪程度、間取りもダイニングルーム付きの近代的なものへと変化します。浴室の給排気は、煙突から[※]バルンス釜に変わり、高齢者を含む世帯向けに老人室のついた住宅もあらわれます。

建替えて生じたスペースには、公園や子ども遊び場、保育園等の公共施設が設けられました。図書館もその一つで、芝久保・谷戸・柳沢・ひばりが丘の4館は、それぞれ都営住宅に併設されています。

※老人室…高齢者が快適な生活を送れるように配慮した部屋

中央図書館は朝 9 時から開いています！

令和5年4月1日から、中央図書館は開館時間を午前9時に変更しました。
データベース専用席があり、調べものの資料が最も充実している中央図書館を
これまで以上にご活用ください。
2階の地域・行政資料室は、これまで通り午前10時から開きます。



「図書館利用に関するアンケート」たくさんの回答ありがとうございました

令和5年3月から4月にかけて、西東京市図書館の利用に関するアンケート調査を実施しました。西東京市外にお住まいの方や、西東京市図書館を使ったことがない方も含め、小学生1859名、中学生739名、15歳以上1018名の方から回答をいただきました。

集計結果から見えてくる、皆様の図書館の利用状況や図書館に対する考え方をまとめ、これからの図書館の課題などを把握整理し、次期西東京市図書館計画（期間：令和6～10年度）の策定のための資料として活用していく予定です。

結果はまとまり次第、図書館ホームページにて報告いたします。

図書館員の本棚

『きらめく拍手の音 —手で話す人々とともに生きる—』

イギル・ボラ／著 矢澤浩子／訳
リトルモア 2020年12月
ISBN:978-4-89815-532-5



耳が聞こえないことは、欠陥ではなく、その人らしさを形づくる一部だと思う。同じように、人が抱える様々な「障害」は、その人を形成する要素の一部だと思う。

私の弟は、周囲に比べて心の成長が遅い。だからと言って、自分一人で何もできないのではなく、彼なりに外部の情報を認知し、判断している。そして、彼には人一倍の優しさがある。人に得手不得手があるのとまったく同じ、これが個性だ。

私にとって、家族に「障害者」を持つことは「受容」と「拒絶」の繰り返しだ。彼の個性を愛おしく思う

と同時に、それをとてつもなく疎ましく思う時もある。それは、著者も同じだ。「父と母の世界を愛していたが、一人で背負うにはそれらはあまりに重かった。障害の有無とは関係なく、世の中の偏見とは何の関係もなく、ただ『私』でいたかった。」

CODA（ろう者の父母から生まれ育った健聴者の子ども）として、父と母の美しき静寂な世界を表す言語を探求するために、著者は長い旅に出た。ただ愛おしいだけではなく、苦勞だってある。飾りのない、ありのままの筆致に胸を打たれた。

(図書館員A)



「花火大会」

田無小学校 6年

利用者エッセイ

わたしと図書館

木村 経世

新型コロナの位置付けが5月8日から感染症法の5類に緩和されました。しかし思い返せば、多くの著名人が命を落としました。ザ・ドリフターズの志村けんもその一人。彼はあのチェンスマーカーで、多い時は1日に4箱も空けていたとか。メンバー最年少の彼が亡くなったのも、それが原因だったのかもしれませんが。本当にタバコが好きで止められなかったのでしょうか。

止められないといえば読書も一緒。筆者は本を次から次へと読みあさる“チェーンリーダー”です。以前は本を購入していましたが、そんな読み方をしていると家じゅうが本だらけになってしまうので、もう何十年も前に図書館に切り替えました。

図書館はとても便利です。西東京市にない本であってもリクエストすれば、都や近隣自治体から本を借りてきてくれます。ときには図書館が購入してくれることもあります。それにひきかえ、筆者の学生時代は、本を探すのに図書館を一館一館探し回ったものでした。なかりせば万事休す。都立図書館は遠すぎて利用できませんでした。

またウェブサイトのキーワード検索も助かっています。筆者は無類のバツハ好き。仲間内で開く講演がとても喜ばれています。講演原稿を書くには文献調査が欠かせません。そんなときもキーワード検索すれば、タイトルを知らない本でも見つけて借りることができます。

この3年間、図書館も受難の時だったと思います。皆様のご苦勞に感謝するとともに、“チェーンリーダー”として図書館を応援していきたいと思います。